

原発ゼロの会・大阪

発行 原発ゼロの会・大阪

NO. 14

2018年 4月9日

TEL06-6949-8120 FAX06-6949-8121



記念講演講師：伊東 達也さん

東日本大震災から7年目を迎える前日の3月10日(土)、エルおおさかに於いて「なくせ！原発 再稼働はんたい！ 3・10おおさか大集会」を開催し、午前と午後で540人が参加しました。(記事は次項)



自然エネルギー交流会



ペットボトルソーラーカー作り



司会を務めた大阪民医連の竹内さん(左)と斎藤さん(右)



主催者挨拶の金谷 邦夫 代表



行動提起を行う鴻村事務局長



「福島の実態」が話されました



9団体からのリレートーク



集会アピールは新婦人の楠木さん

お知らせ

原発ゼロの会・大阪

第4回総会

とき：5月24日(木) 18:30～

ところ：大阪民医連・会議室

大阪市中央区南本町 2-1-8 創建本町ビル 2F(地下鉄・堺筋本町駅下車) TEL 06-6268-3970



「なくせ！原発 再稼働はんたい！ 3・10 おおさか大集会」を開催

午前中はエネルギー部会の主催で、エルおおさか 708 号室にて、「自然エネルギー・再生可能エネルギーの実例 活動交流集会」を開催、70 人が参加しました。現物や試作品の展示、ポスターセッションが行われ、参加者の関心を集めました。また、709 号室では、ペットボトルで作る「ソーラーカーづくり」も行われました。

午後からは、会場を 2F エルシアターに移して、メイン講演大集会を開催し、470 人が参加しました。主催者を代表して、原発ゼロの会・大阪の金谷代表が挨拶。

記念講演では、原発問題住民運動全国連絡センター筆頭代表委員の伊東達也さんより「福島の間と原発住民運動の課題 ～原発住民運動の歴史にもふれて～」のテーマで話していただきました。伊東氏は、「7年経っても深刻な福島の実態」として、未だ戻れない避難者と原発の廃炉に見通しが立っていないことを指摘するとともに、「山積する課題」として、生活再建と古郷復興への対策、健康を守る長期的政策、原発労働者への人権保障の大切さ、被害が続く限り賠償される仕組みづくりの必要性を訴えられると共に、国民世論における運動が全国各地で取り組まれていることなどを、「原発ゼロへの展望」として話されました。(詳細 4面参照)

リレートークでは、①原発なくそう茨木市民の会、②寝屋川 原発いややん行動、③南河内革新懇ネットワーク、④生野区 原発なくそうパレード実行委員会、⑤民青大阪府委員会、⑥大教組青年部、⑦とよなか市民エネルギーの会、⑧八尾環境会議、⑨原発ゼロの会・エネルギー部会の 9 つの団体より発言があり、各団体で行って

いる活動や様々な運動が報告されました。

集会に当たり、当面の取り組みへの呼びかけを原発ゼロの会・大阪の鴻村事務局長が行い、新婦人の柿木さんより集会アピールが読み上げられ、採択されました。また、会場内でのカンパは 15 万 8300 円が寄せられました。

集会後は、関西電力の筆頭株主でもある大阪市役所まで、280 人の参加でパレード行い、「関西電力は原発から撤退せよ！」と力強いシュプレヒコールをあげ、元気にアピールしました。



リレートーク 報告者一覧

テーマ		毎週、粘り強く宣伝行動を続けている地域・団体		
報告内容	毎週金曜日の駅頭宣伝	関電羽曳野営業所前での宣伝		
団体	①原発なくそう茨木市民の会	②ねやがわ原発いややん行動	③南河内革新懇ネットワーク	
報告者	蔵本 福子・高田 真佐子	竹村 三仁	奥宮 直樹	
テーマ		福島支援や様々な企画に取り組む地域・団体		
報告内容	開始5周年、200人参加デモ	青年を中心に福島支援	復興支援と原発視察	
団体	④生野区・原発なくそうパレード実行委	⑤大阪教職員組合青年部	⑥民主青年同盟大阪府委員会	
報告者	藤岡 俊夫	宮本 奈生	芝田 雅彦	
テーマ		自然エネルギー普及への取り組み		
報告内容	ペラダ発電の取り組み	補助金も受け市民共同発電所	自然エネルギー連続講座ほか	
団体	⑦とよなか市民エネルギーの会	⑧八尾環境会議	⑨ゼロの会・大阪 エネルギー部会	
報告者	平田 眞彦・三上 亜弥	宮川 晃	中村 毅	

府民のくらしと命を守る立場から原発ゼロの社会に向けて、大阪府の役割を發揮せよ！ 2月20日(火)、要請書に基づく大阪府との交渉を行いました！

2月20日(火)、原発ゼロの会・大阪は、松井大阪府知事に宛てた要請書にもとづき、大阪府との交渉を行いました。原発について大阪府の回答は、「最終的にはゼロを目指して、その依存度を可能な限り低下させるべき」とどまり、「直ちになくすべき」との立場には立っていないことが明らかになりました。また、福井の原発が過酷事故を起こした場合の対応では、「大阪府は原子力発電所から概ね 30 キロメートル以上の距離にあり、福井県に立地する原子力発電所の原子力災害対策重点区域に含まれていない。モニタリングを行い、異常があれば対応する」との回答。「独自のシュミレーションなどは行っていない」ことも明らかになりました。ゼロの会からは、「調査でも放射性物質が琵琶湖や大阪市まで飛んでくることは明らか。福井の複数の原発が同時に過酷事故を起こした場合や大雪などでの交通機関がマヒした場合を想定した避難計画もない。国基準を満たせば十分の姿勢では不十分であり、府民のくらしと命を守るために大阪府として、もっと役割を發揮すべきではないか」と追及しました。また、再生自然エネルギーの普及に向けても、施策の実効性を高めるために引き続きの努力を求めました。



自然エネルギー交流会に60人、手づくり教室に8人 ベランダ発電、小水力などの取り組みを展示

3.10集会では午前中、今年も自然エネルギー交流会が持たれました。出展は太陽光関係が4件、小水力が2件、市民共同発電所づくりが2件、電力販売事業、電力会社の変更事例、効率的な薪ストーブ、健康も重視した省エネ住宅が各1件の合計13件でした。また、昨年の自然エネルギー連続講座で視察・見学した食品・木質バイオ、小型風力なども写真で展示され、参加者からは「とても実践的で勉強になり、大変良かった」との感想が寄せられました。また、今年は初めてソーラーカー手づくり教室が並行して開催され、自然エネルギー市民の会の方が指導員になり、ペットボトルを活用したソーラーカー作りをしました。小学生高学年が対象でしたが、「地域の集いで取り組みたい。そのための事前に体験しておきたい」などで大人の方も参加していました。



ソーラーカー手づくり教室

出展者から寄せられて感想を紹介します。

小水力発電を出展したクールアイランド(高知県)の平井政志さん

自然エネルギー交流会に出展させていただきありがとうございました。自社で開発した水の力で水車発電



機を回転させ発電を行う高性能超小型ターゴ水車発電システムを展示しました。

独立型蓄電式小水力発電シ

ステムです。環境に優しくCO2排出ゼロ、身近な水の流れを活用する国産クリーンエネルギー。災害時・停電時の非常用電源としても最適です。遠方で毎回の参加は難しいと思いますが、機会がありましたらまた参加させていただきたいと思います。

電力会社の切り替えを報告した鶴見区の中村寿子さん

楽しく交流できました。自然エネルギーの利用技術は日進月歩。技術的・費用的に一般市民でも実践・参加できることが多くなったと思います。電力会社の変更についてもハードルが高いと思っている方が多いのが現状ですが、原発に固執する電力会社と手を切るために取りあえず別の会社に切り替えたわが家の経験からすると、それは極めて簡単でした。約款の説明を受けてサインするだけでOK、電力会社への通知、契約

金、メーターの取り換えなどは一切不要でした。

4カ月を経過して電気代は月額で300円ほど安くなっています。皆さんもぜひ電力会社の契約変更を検討してみてください。

健康・省エネ住宅を展示した住まい工房の藤田敦夫さん

健康・住まい工房おおさかの藤田です。省エネを住宅(住まい)・事務所レベルの仕様で考えていくことが重要です。住まいにおいては、省エネと健康は不離一体のものです。新築やリフォーム時のインシャルコストだけを考えるのではなく、その物件が存在する期間(例えば60~80年)でコストを考えていくことの重要性も認識するようにしたいものです。

身内の人の集まりのようでしたが、もっと一般の人たちが関心を示すような宣伝と企画の在り方、例えば1日企画などを検討して欲しいと思いました。

効率的な薪ストーブを出展したコロケットの中辻多佳子さん

多数の方に薪ストーブの良さを知っていただくには良い機会だったと思います。災害時にも使えるコロケットをもっともっと普及させるためにも、このような機会を頻繁に作っていただきたいと思いました。

自然エネルギーに興味のある方がたくさん参加されましたが、まだまだこのような会をご存知ない方も多くいらっしゃると思います。もっと大々的に宣伝も行い、通りすがりの人々も参加できるような催しになればなお良いかと思いました。

3・10 大阪集会での記念講演、伊東達也さんのお話を再現しました。紙面の関係上、以下の4つのポイントに絞って掲載させていただきます。

①福島でつづく健康不安の実態の紹介・共有、②甲状腺がんをめぐる専門家の対立に対する、伊東さんの願い・わたしたちの持つべき一致点、③原発問題住民連絡センターのやってきたこと、3つの住民投票での勝利で得た伊東さんの実感・勝利の方程式、④住民連絡センターの申し入れを受けて、明暗を分けた女川原発と福島原発、国の姿勢に対する私たちの運動のあり方。この4点には、原発廃炉をはじめ、様々な運動にも共通するものが多いにあると思われま

福島は、7年経っても深刻な事態に直面しています。山積している課題を紹介したいと思います。

1つ目は生活再建と復興への対策は急務だということです。福島大学が行った双葉郡住民実態調査があります。無職の人が55.5%。今後の生活について、ある程度不安が40.5%、とても不安が33.8%。70%に達します。不安なこと、つらいことの中身は、また事故が起きないか、中間貯蔵施設・廃棄物施設の安全性、コミュニティ、地域のつながりが破壊された、長年のつながり、交流がなくなった、など。それぞれ7割を超えている。こういう問題についてはほとんど政府の支援策はない。国は故郷に帰ったか帰っていないか、そういう数字には非常に敏感だが、帰った人にどうするか、帰れなかった人にどういう手立てを施すか、そもそも福島県民180万人が住み続けられるようにするにはどうするか、ここへの支援策はありません。私どもが行って被災者が来たと言って、政府の担当者が身構えたり緊張したりしたのは事故後1年くらいですかね。最近はどう、いわきから来たと言っても全然緊張感がない。何しにきたと言わんばかりですね。まともな政策はないんですね。

2つ目には、健康を守る長期的な政策が必要だということです。避難者も含めて健康不安への施策の確立が何よりも望まれています。事故後、子どもの体力低下や肥満問題が指摘されました。各種の精神不安が指摘され、アルコール依存症、孤独死は70人ほどが報告されています。自殺は、年を明けると警察が発表しますが、現時点で99人になりました。そして震災関連死。本日時点で2,222人です。刻々と増えています。直接死は1,605人です。こうした問題に対して長期にわたる対応策が求められています。事故時18歳未満の甲状腺健診によってがんが発見され、手術した人は160人になりました。疑いは36人です。

私の願いを伝えたいと思います。福島県民全体の意見というのはまとめられません。甲状腺がんに対する見解なども、専門家ですら意見が分かれるのですから、難しいです。ただ、ここに住民が巻き込まれて、どっちが正しいどっちが正しくないという対立ではなく、健康診断を受けたいという住民の想いに対して、いつでもどこでも対応できる仕組みを作ろう、こういうことでみなさん、一致できませんか。

3つ目の課題は、廃炉と労働者の問題。福島県では80%の人が原発は廃炉にすべきだと、全国から原発をなくすべきだと答えている。沖縄とその点では堂々と渡り合えるオール福島なんです。同時に、廃炉にしていくときに働く人々がいるんですね。私は働く人の在職中から退職まで福島第一原発における被曝管理手帳を国と東電の責任で交付し、いつでもどこでも受診できる仕組みづくりが求められていると思います。民医連の全国の被曝部会が、これはかなり早くから提案しています。実現していくことが大切になっています。

4つ目には賠償される仕組みづくりが重要だということです。原発事故による損害額は現在21.5兆円ですね。それを政

府が、東電や原発関連企業などには求めず、電気料金に上乗せして、国民みんなに被害を押し付けていることが問題。

国民の対立があおられていますね。国民の中にあるうつぶんが福島の被災者に向けられているのではないかな。この大阪でもいろいろな意見が出てくると思います。もしこれ以上、わたしたちの税金を福島県民に使わせたくないというような意見を聞いたときは、ちょっと待ってくださいと。お話をさせていただきたいんです。そもそも原発を推進してきた勢力に向かうべきではないかと。福島県民の願いです。

私が務めているのは、原発問題住民運動全国連絡センター代表委員です。設立はチェルノブイリ原発事故の発生の1年後、1987年でした。原発の危険に反対するという点を原点として、思想信条の違いを超えて原発の一般的な是非の意見の違いを超えて誰でも共有できる運動を目指してきたのであります。

私たち住民全国連絡センターは、重大事故を未然に防ぎたいと。国民に関心をもってもらって過酷事故を未然に防ぐことを最大の課題として機器冷却系の監視に重点をおきました。難しい言葉を使いますが、原発は止めればいいという問題ではないですね。止めても使用済み核燃料がものすごい放射能が詰まっていますから。崩壊熱という次の物質に変るときに強い熱を発生する。これがどんどんどんどん水を蒸発させてしまう。水をかけ続けなければならない。

東北電力の女川原発は1960年のチリ津波の時に、引き潮で海底が見えるほど海水が足りなくなる事態になりました。私たちは、冷却水が届かなくなる事態に対し、対策を要求しました。結果、東北電力はしゅんせつ工事を行いました。3・11後、東北電力も認めているんです。このしゅんせつ工事をしていたことも、福島第一原発と異なり、女川原発が事故を避けられた理由のひとつだと。

福島の第一原発はどうだったのか。私たちは少なくとも2004年から4年間、重大なことに気づきました。

3・11の4カ月前にも申し入れを行っているんです。日本列島における大地震は活動期に入ったと。国も東電も絶対に大丈夫だの一点張りだったんです。私たちも下で出て、この対策をしなければあなたたちも困るのではないですか、とこういう点で認識を共有できませんか、と申し入れを行った。国にも東電にもこの申し入れ書を届けています。4カ月前です。対応は、事故は起こらないんだから、共有しろと言われても皆さんの言うことには受け入れられませんと。こう私どもに答弁しているんですよ。

3・11で国民は本当に大切なことを学んだと。間違いなく日本は原発ゼロにできる国民の意識をいま、途上として持っている。どっちがより一層強く持つことができるのか。安倍政権なのか、国民なのか。押し合い押し合いの闘い。大きな国民運動が心から待たれていると思うんです。みなさんどうか大阪の地で運動を一層、続けて頑張るとともに原発ゼロにしたいものです。ぜひ福島にも来てください。大歓迎いたします。7年間放置された野山を皆さんの目で確かめてください。どうぞよろしくお願いたします。ありがとうございました。